

平成 2 1 年度  
鳥栖市における石綿の健康リスク調査報告書

鳥栖市

# 一般環境経路による石綿ばく露健康リスク調査（鳥栖市）

## 目次

1. 目的	2
2. 内容	
(1) 調査対象者	2
(2) 調査内容	
(ア) 鳥栖市保健センターにおける確認	2
(イ) 精密診断	2
(ウ) 医学的所見の確認	2
(エ) 経過観察者への対処	3
(オ) データの解析	3
3. 結果	
(1) 協力者数	3
(2) 協力者の医学的所見・ばく露歴の整理	4
4. 考察	4
5. 今後の予定	5

## 1. 目的

一般環境を経由した石綿ばく露による健康被害の可能性があった鳥栖市において、石綿ばく露の可能性があったと思われる周辺住民に対して、問診、胸部X線検査、胸部CT検査等を実施することにより、石綿ばく露の医学的所見である胸膜プラーク等の所見の有無や健康影響との関係に関する知見を収集し、石綿のばく露歴や石綿関連疾患の健康リスクに関する実態把握を行うとともに、周辺住民への健康増進に資する。

## 2. 内容

### (1) 調査対象者

昭和33年～61年までに鳥栖市に居住歴があり、一般環境を経由した石綿ばく露による健康被害の可能性のある者を調査対象者として、市広報等により募集した。

また、平成17年度アスベスト健康相談等を受診した結果、「要精密検査」と判定された者と平成18年度から平成20年度石綿健康リスク調査受診者のうち、要医療と判定された者を除いた全員に別途案内状を送付した。

なお、上記以外の者についても石綿ばく露の可能性があれば調査対象者に加えた。

### (2) 調査内容

#### (ア) 鳥栖市保健センターにおける確認

鳥栖市保健センターにおいて、応募者に対し、保健師立ち会いの下、問診票を用いた問診を実施した。問診の結果、石綿ばく露の可能性が認められた者に対し、本調査事業の説明、調査協力に対する同意をとり、調査登録台帳に登録を行い、胸部X線検査、胸部CT検査等の精密診断を実施するに当たっては、鳥栖市が指定した医療機関への紹介状及び受診券を発行した。

なお、既に他の検診を受診している者が、本調査に加わる場合については、鳥栖市保健センターにおいて、保健師立ち会いの下、問診を行い、上記と同様の手続きを行った。この時、既に胸部CT検査など精密診断を受けている場合は、本人の承諾を得て、実施医療機関より精密診断の結果等を受領した。

#### (イ) 精密診断

調査対象者は、精密診断を受診するに当たり、鳥栖市が発行した紹介状及び受診券を指定医療機関（今村病院、古賀病院、やよいがおか鹿毛病院、国立病院機構東佐賀病院、久留米大学病院、古賀病院21）に提出し、受診するものとした。ここでは、胸部X線検査、胸部CT検査（原則数年に1回。既に他の医療機関で受診した場合はそのデータを活用し、初回時は省略。）を行った。

精密診断の結果、中皮腫及び石綿による肺がんが疑われた場合、指定医療機関は、病理組織検査、石綿繊維・石綿小体の測定等を行った。

#### (ロ) 医学的所見の確認

鳥栖市石綿健康対策専門委員会において、専門家による読影を行い、次のとおり医学的所見を確認し、検査の結果を調査対象者に通知した。

【医学的所見の振り分けの考え方】

- ① 石綿健康被害救済法の対象疾病となった者は、その時点で調査終了とする。
- ② 石綿ばく露に関する医学的所見が認められる者のうち、医療の必要がないと判断された者は、経過観察とする。
- ③ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められる者のうち、医療の必要があると判断された者は、調査終了とするが、治療終了後に経過観察者に含めることは妨げない。
- ④ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められない者のうち、医療の必要がないと判断された者は、経過観察とする。
- ⑤ 石綿ばく露に関する医学的所見が認められない者のうち、他の疾病により医療の必要があると判断された者は、調査終了とするが、治療終了後に経過観察者に含めることは妨げない。

上記②または④と判断された者については、1年後に受診勧奨を行うとともに、受診券を発行する。なお、①、③及び⑤の対象者については、できる限り調査対象者に同意を得た上で、治療経過等の把握に努めた。

(エ) 経過観察者への対処

【医学的所見の振り分けの考え方】で②または④と判断された者は、鳥栖市保健センターの指導の下、受診券の発行を受け、年1回指定医療機関において精密診断（胸部X線検査、必要に応じ胸部CT検査、病理組織検査等）を受診する予定。なお、精密診断の内容及び必要性の可否は、前回の所見等を総合的に勘案して判断するものとした。

(オ) データの解析

上記(ア)～(エ)の一連の作業について、鳥栖市石綿健康対策専門委員会において、医学的な観点からの判断や検討、石綿のばく露歴や石綿関連疾患の健康リスクについて解析を行った。

3. 結果

(1) 協力者数

問診・胸部X線検査、胸部CT検査まで受診・資料提供した者は 148名いた。

このうち、

I. 平成21年度分

- |                                  |      |
|----------------------------------|------|
| ① 昭和33～61年に鳥栖市に居住していた者           | 145名 |
| ② 上記①のうち、現在も市内に居住している者           | 140名 |
| ③ 平成18年度の石綿健康リスク調査を受診した者(①の重複含む) | 54名  |
| ④ 平成19年度の石綿健康リスク調査を受診した者(①の重複含む) | 87名  |
| ⑤ 平成20年度の石綿健康リスク調査を受診した者(①の重複含む) | 105名 |
| ⑥ 平成21年度に初めて石綿健康リスク調査を受診した者      | 32名  |
| ⑦ 上記以外のもの                        | 3名   |

※①の受診状況 医療機関別・・・表1

年齢構成別、受診内容別受診・・・表2-1、表2-2

## II. 平成18年度から21年度累計分

① 昭和33～61年に鳥栖市に居住していた者	334名
② 上記①のうち、現在も市内に居住している者	320名
③ 平成18年度の石綿健康リスク調査を受診した者(①の重複含む)	151名
④ 平成19年度の石綿健康リスク調査を受診した者(①の重複含む)	189名
⑤ 平成20年度の石綿健康リスク調査を受診した者(①の重複含む)	192名
⑥ 平成21年度に初めて石綿健康リスク調査を受診した者	32名
⑦ 上記以外のもの	8名

### (2) 協力者の医学的所見・ばく露歴の整理

協力者の医学的所見・ばく露歴について、A～C表に整理し、取りまとめた。

#### I. 平成21年度分

- A表 問診・胸部X線検査・胸部CT検査まで受診し、資料提供した者(添付)
- B表 協力者のうち昭和33～61年に鳥栖市に居住していた者145人(添付)
- C表 145人のクロス表(添付)
- D図 ばく露分類が「オ(その他)」の者に関するプロット図

#### II. 平成18年度から21年度累計分

- A表 問診・胸部X線検査・胸部CT検査まで受診し、資料提供した者(添付)
- B表 協力者のうち昭和33～61年に鳥栖市に居住していた者334人(添付)
- C表 334人のクロス表(添付)
- D図 ばく露分類が「オ(その他)」の者に関するプロット図

## 4. 考察

### ①平成21年度分

今回の一般環境経路による石綿ばく露健康リスク調査において昭和33年から61年に鳥栖市に居住していた者が145人受診している。そのうち石綿に関連する可能性のある所見が18人であり、石綿に起因することが明らかな胸膜プラークの所見がある者が17人(11.7%)と一番多かった。

この17人のばく露歴をみると、直接石綿を取り扱っていた職歴がある者が31.1%(14/45)、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者が0%(0/17)、家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者が11.5%(3/26)、職域以外で石綿取り扱い施設や吹き付け石綿の事務室などに立ち入り経験があるものが0%(0/13)、その他(ばく露歴が確認できない者)が0%(0/44)で、直接石綿を扱っていた者に多くみられた。

肺野の間質影の所見がある者は1人(蜂窩肺)で家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者だった。現在、呼吸状態悪化のため入院治療中である。

また、ばく露歴が確認できない者のプロット図について胸膜プラークの所見が見られる者のプロットは0であり、石綿取り扱い施設との関係を明確に確認することはできなかった。

今回の健診には、平成18、19、20年度のいずれかに受診し、経過観察となった113人が受診しており、そのうち、不変が89人、所見変化が24人だった。

## ②平成18年度から21年度累計分

平成18年度から21年度までの調査は昭和33年から61年に鳥栖市に居住していた者が334人受診している。そのうち石綿に関連する可能性のある所見が57人であり、石綿に起因することが明らかな胸膜プラークの所見がある者が49人(14.7%)と一番多かった。

この49人のばく露歴をみると直接石綿を取り扱っていた職歴がある者が30.9%(35/113)、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者が14.6%(6/41)、家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者が9.6%(5/52)、職域以外で石綿取り扱い施設や吹き付け石綿の事務室などに立ち入り経験があるものが0%(0/31)、その他(ばく露歴が確認できない者)が3.1%(3/97)で、直接石綿を扱っていた者に多くみられた。

肺野の間質影の所見がある者のばく露歴をみると直接石綿を取り扱っていた職歴がある者が2.7%(3/113)、職場で石綿ばく露した可能性のある職歴がある者が2.4%(1/41)、家族に石綿ばく露の明らかな職歴がある者が3.8%(2/52)、職域以外で石綿取り扱い施設や吹き付け石綿の事務室などに立ち入り経験があるものが0%(0/31)、その他(ばく露歴が確認できない者)が4.1%(4/97)で、その他(ばく露歴が確認できない者)に多くみられた。

また、ばく露歴が確認できない者のプロット図について胸膜プラークの所見が見られる者のプロット数は3であり、石綿取り扱い施設との関係を明確に確認することはできなかった。

## 5.今後の予定

次年度においては、新規の調査対象者の募集を行うとともに、前年度受診し、経過観察と判定された者については、継続して調査への協力を求め、データの更なる蓄積を図っていく予定である。

## 6. 参考資料

- ・問診票
- ・指定医療機関への紹介状
- ・受診券
- ・指定医療機関名簿
- ・鳥栖市石綿健康対策専門委員会名簿

(各資料を添付)

表1 指定医療機関別受診者数

	合計		男		女	
	人	%	人	%	人	%
今村病院	54	37.2	28	36.3	26	38.2
やよいがおか鹿毛病院	31	21.4	18	23.4	13	19.1
古賀病院21	29	20.0	17	22.1	12	17.6
古賀病院	17	11.7	8	10.4	9	15.4
東佐賀病院	6	4.1	2	2.6	4	5.7
久留米大学病院	8	5.5	4	5.2	4	5.7
合計	145	100.0	77	100.0	68	100.0

表2-1 年齢階層別受診者

	合計		男		女	
	人	%	人	%	人	%
40歳未満	6	4.1	4	5.3	2	2.9
40～49歳	12	8.3	5	6.6	7	10.1
50～59歳	25	17.2	14	18.4	11	15.9
60～69歳	58	40.0	28	36.3	30	43.5
70～79歳	34	23.4	16	21.1	18	25.3
80～89歳	10	6.7	9	11.8	1	1.4
90～99歳	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	145	100.0	76	100.0	69	100.0

表2-2 検査項目別受診者数

	合計		男		女	
	人	%	人	%	人	%
問診+胸部X線+胸部CT	71	49.0	42	55.3	29	40.9
問診+胸部X線のみ	73	51.3	34	44.7	39	56.5
問診+胸部CTのみ	1	0.7	0	0.0	1	1.4
問診のみ	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計	145	100.0	76	100.0	69	100.0